

代表取締役 本田武市が FujiSankei Business i 『次代を斬る-起業家列伝-』に掲載されました。

ティー・オーエンタテインメント  
**本田 武市社長**

**次代を斬る**  
 起業家列伝

▽▽117

ティー・オーエンタテインメントは、作家、映像作家などと組んで映画制作の企画段階からかわり、世界で売れる、日本映画作りに取り組んでいる。

角川書店出身の創業者、本田武市社長は、映画制作過程で自ら著作物を開発し、その著作権を管理・マルチユースするという従来にはないビジネスを通じ、映画産業の活性化も展望する。

映画や映像を作る過程では、シナリオをはじめ言葉、映像、音楽、アニメのキャラクターなどさまざまな著作物が生まれる。同社は、映画・映像制作の最も上流となる作家とともに企画・制作を行うことで、各著作物を自ら生み出すという創造的事業がコアだ。

生んだ著作物は、権利ビジネスとして出版、映像・音楽・キャラクター利用権、商品開発、ウェブ利用などに展開している。

その特徴は、国内・外の



〈ほんだ たけいち〉97年早大社会学部卒、角川書店入社。角川でアニメ、書籍編集、映画制作などに関わり2003年退職。同年ティー・オーエンタテインメント設立、代表取締役就任。31歳。奈良県出身。

**映画に関わるすべてをビジネスに**

- 【会社概要】**
- ▷本社＝東京都千代田区神田鍛冶町2-2-5 5階
  - ▷設立＝2003年4月
  - ▷資本金＝3230万円
  - ▷従業員数＝9人
  - ▷売上高＝1億4000万円(2006年3月期)

映画制作会社やコンテンツ（情報の内容）メーカーなどに企画を持ち込み、国内のほか海外でも通用する映画作りに努めている点だ。そうして制作された作品には、同社や内外の営業先企業に加え、作家自身も出資する。

本田社長は「これまで作家が自分の作品に出資することはなかった。作家が主体的に映画作りに参加することで、関係各者の思いを融合させた内容の濃い作品につながる」と計る。

最近手がけた作品では大石圭氏のホラー小説「1303号室」が有名だ。すでに書籍出版され、映像化権は米国の配給会社モンテクリスト・エンタテインメント（ニューヨーク）などに譲渡され、海外での映画化も決まった。

「日本映画やアニメを輸出産業にしたい」。例えば人口四千万人の韓国では、映画制作を通じてビジネスが自国内だけでは完成しないと割り切り、当初より輸出産業を視野に入れていくという。

一方の日本では、「海外市場に全く目を向けない映画制作が目立つ」。最近、聞いたこともない通貨単位での振込通知があり驚いているという本田社長。「世界のお金が日本映画で入ってくる」ことを肌で感じながら、日本映画の国際化に向けて奔走する。

（ジャーナリスト 遠藤昌明）

木、金曜日に掲載